

活動状況報告書（10月分）

文化芸術コース 6期生 荒川 真央

ドイツの大学は10月から始まる冬学期(ゼメスター)と4月から始まる夏学期から成るところが多く、シュトゥットガルト音楽演劇大学も10月から新たな学期がスタート、バカンスを終えた学生や先生たちが大勢戻ってきました。

【基本的な一日の過ごし方】

07:00 起床

08:30 朝練習(大学の練習室は予約制、24時間練習可)

12:00 帰宅・昼食・家事・買い物・散歩・おやつ

※13:00-15:00 Ruhezeit(静かな時間)⇒ドイツでは“騒音を立ててはいけない時間”が存在し、基本的には夜中早朝及び13:00-15:00の間を静かに過ごすためのRuhezeitが設けられています。アパートやマンションによって若干のルールの違いがありますが休息やプライベートを守るための時間と言われ、自宅での楽器演奏は不可。読書やお昼寝をするドイツ人も多いようです。

15:30 大学図書館利用

16:30 練習

21:30 帰宅・夕食

22:30 ドイツ語の勉強

23:30 メール・メッセージ返信(日本との時差8時間※サマータイム中は7時間)

00:00 就寝

音楽家にとって“練習”をすることは最も重要なことですが、より重厚な音楽を創り上げるには五感で日常の様々な機微まで感じ取ること、そして知識量を増やすことも大切なことだと思います。作曲家がどういう経緯でその作品を作曲したのか、どういう時期・環境に身を置かれていたのか。

私は現在、日常生活程度にしかドイツ語を使うことが出来ませんが、それでも、日々生活をする上で日本語とドイツ語では言葉のニュアンスが微妙に異なるように感じる事が多く、図書館を利用するようになって更に、ドイツ語で書かれた文献と、日本語で書かれたものを読むのでは違った色合いに感じ、自分の心情や「自分はこう考える・こう捉えた」というより自主的な思考性に敏感になったように思います。留学は誰にでも得られる経験ではありませんが、やはりヨーロッパの音楽を学ぶ=感じるにはそこに身を置くことはとても大切なことであると実感した10月でした。

またM.レーガーの作品研究において、現在、ピアノ独奏【テレマンの主題による変奏曲 Op. 134】に取り組んでいますが、1曲で30分以上もある大曲をより多彩に表現するには今の私が見つけた音色だけでは到底少なく、モーツァルト作曲の変奏曲、ウェーベルン作曲の変奏曲等、私が苦手意識を持つ作曲家の作品にも取り組むように先生から意見を頂きました。

11月はレーガー生誕150年を記念した演奏会に足を運びつつMax Reger Institut(レーガー協会)とのコンタクトを図りたいと考えています。



シュトゥットガルト・シュロスプラッツ



シュトゥットガルト音楽演劇大学



練習室



大学図書室